

狭山市立博物館・開館記念特別展

アケボノゾウにちなんで

古代象の仲間たち

会期 ● 11月1日<金>~12月8日<日>迄

会場 ● 企画展示室

協賛 ● 国立科学博物館



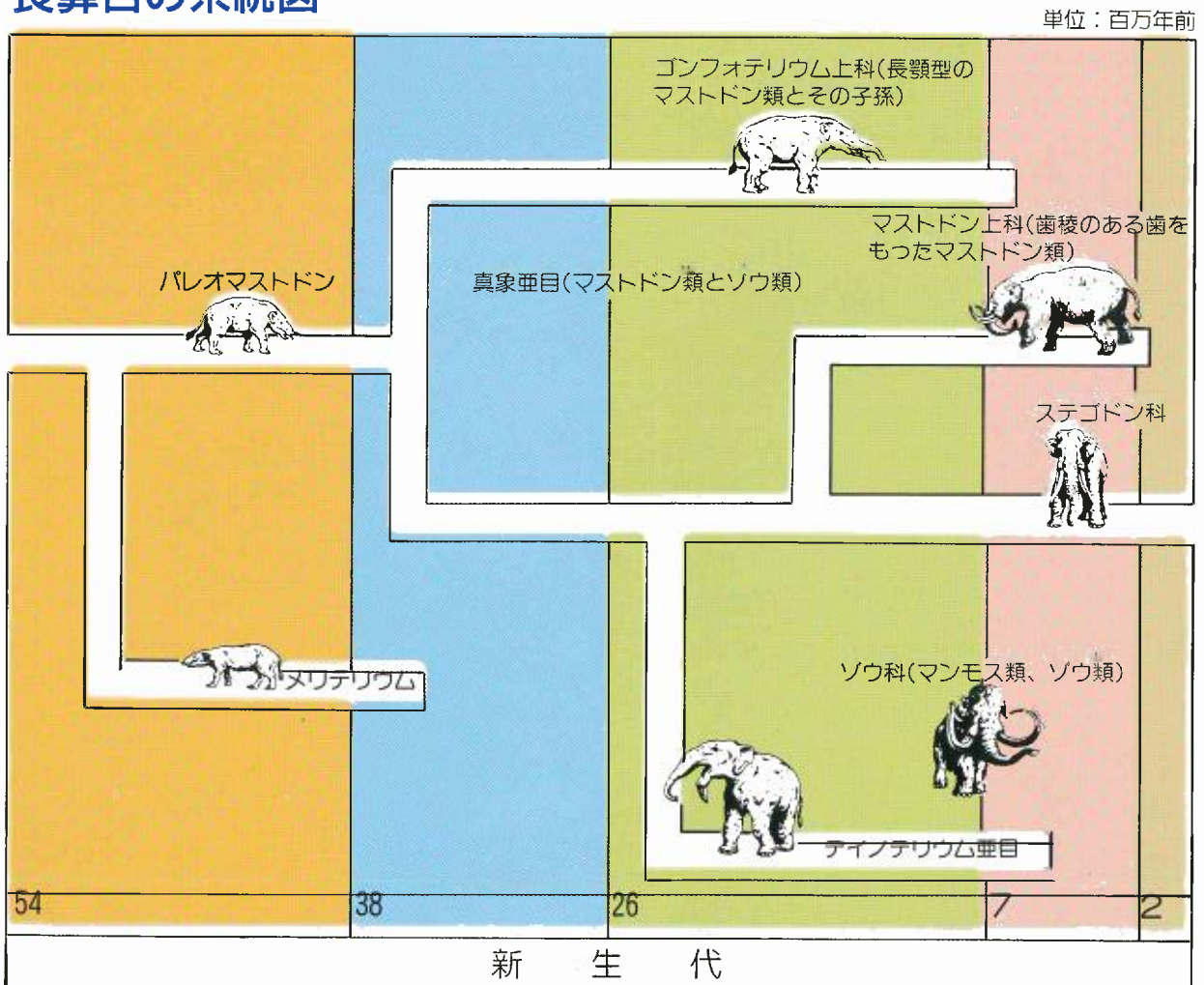
古代象の仲間たち

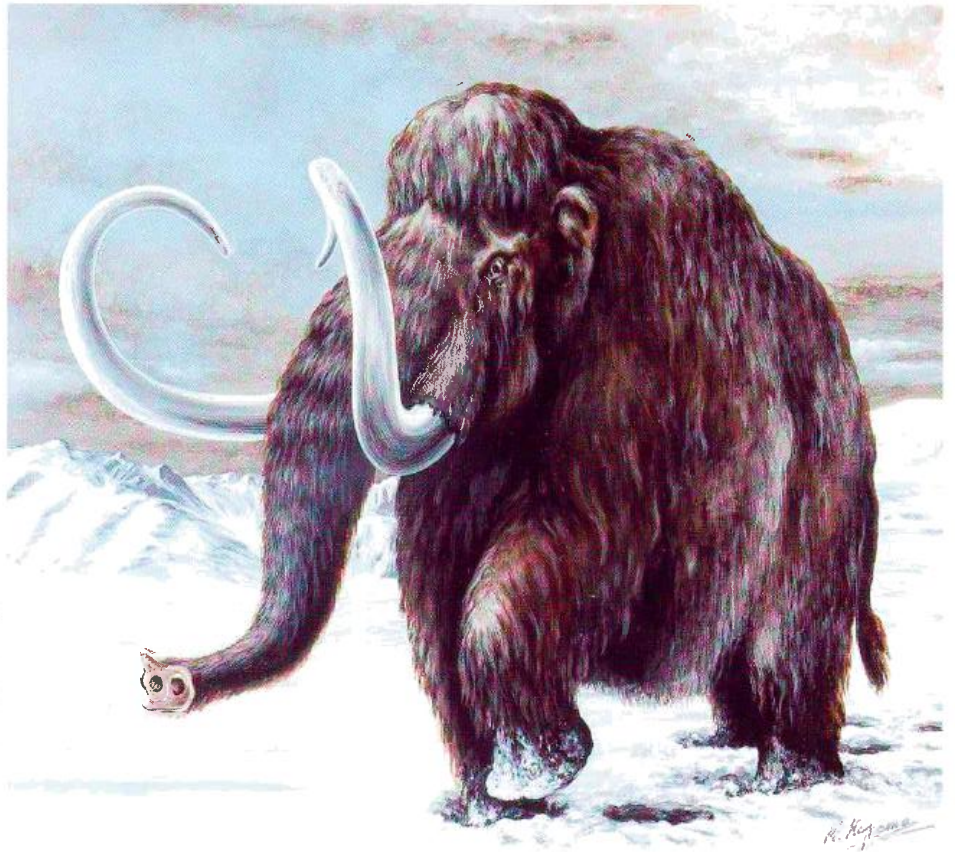
象の仲間（長鼻目^{ちうび}）として始めにあらわれたメリテリウムはブタぐらいの大きさと吻（鼻先^{ほん}）も現在のゾウとはおおきく異なっていました。

これは地質時代の第三紀・始新世（5800万～3500万年前）時代に現在のアフリカ大陸にあたる部分に生息し、その子孫は次第にオーストラリアと南極大陸を除く世界各地にひろがり体格を巨大化させつつ様々なゾウに進化してきました。

狭山市で化石が発見されたアケボノゾウは長鼻目の進化の歴史では比較的あたらしく約170万から70万年前に生息していたものです。

長鼻目の系統図



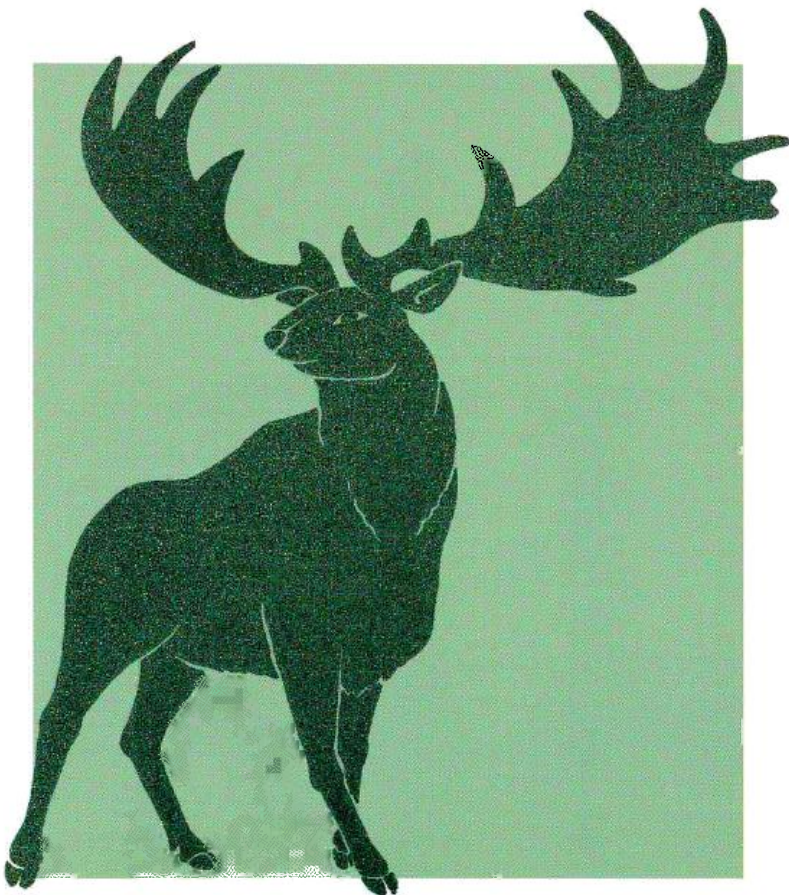


マンモスゾウ

地質年代の後期更新世から完新世
(15万～8千年前)頃にユーラシア
大陸と北アメリカ大陸に生息した
大型のゾウで寒冷な気候に適応し
長い体毛を持っていました。

肩高=約2.8～3.2m

(シベリアマンモス)



オオツノシカ

マンモスやナウマンゾウと同時代の
代表的な動物です。

日本のオオツノシカは約10万年前から
1万5千年前の地層で発見され、中国
の同類に比べると、角の枝わかれの位
置や幅に特徴があり、これを研究した
矢部長克先生にちなんでヤベオオツノ
シカと称されています。

(体長=約2.5m、肩高=約1.6m)

日本に住んでいた古代象たち

マンモス



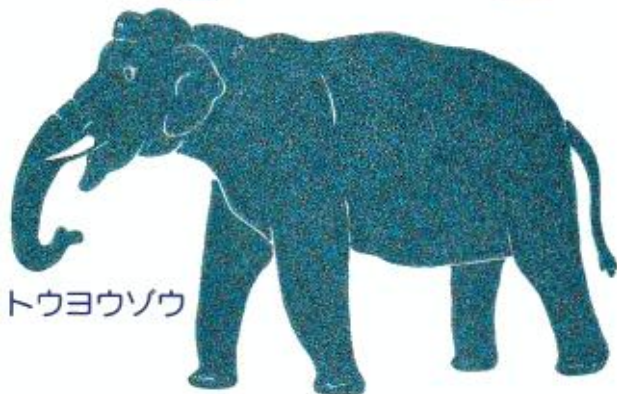
ナウマンゾウ



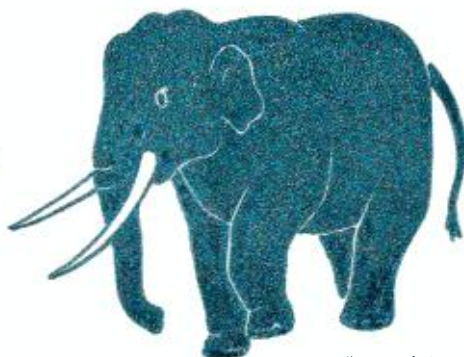
シガゾウ



トウヨウゾウ



アカシゾウ



アケボノゾウ

※現在ではアケボノゾウとアカシゾウは
同一種とされています。



ステゴロフォドン



狭山市立博物館

〒350-13 埼玉県狭山市稲荷山1-23-1
TEL(0429)55-3804(代) FAX(0429)55-3811